

滋賀貿易情報センターの設置について

1. 設置理由：

- (1) 滋賀県には、潜在的に競争力ある農産品が多く存在する。2016年3月に「滋賀県農畜水産物輸出戦略」を策定し、「近江牛」「近江米」「近江の茶」の3つを重点品目に、「湖魚」、「花卉」、「淡水真珠」等をチャレンジ品目に設定した。これら品目の海外販路拡大を強化することとしており、JETROの更なる協力が期待されている。
- (2) 県内総生産に占める第二次産業の比率が41.0%で全国1位(2013年度)。県内には縮緬(長浜)、バルブ、仏壇、ファンデーション(彦根)、麻織物(湖東)、製薬(甲賀・日野)、陶器(信楽)、綿織物、扇骨(高島)の9つの地場産業がある。2016年3月には、地場産品の需要拡大等を基本理念とした「近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する条例」を施行するなど、高品質で国際的に競争力のある県内製品を世界に発信し、新たな販路を開拓すると共にブランド力の向上を図る上で、JETROの協力が期待されている。
- (3) 琵琶湖のある滋賀県では水環境関連企業も集積している。産学官金民約140企業・団体が、「しが水環境ビジネス推進フォーラム」を組織。西日本最大級の環境産業総合見本市「びわ湖環境ビジネスメッセ」(本年度開催20回目)を開催するなど、水環境の産業集積と取組は、潜在的な競争力を有している。
- (4) 京阪神に近いなど利便性が高い同県には既に外資系企業26社が進出(滋賀県調べ)。県はJETROとの連携を強化し、同県の情報を積極的に発信することで外国企業誘致に繋がりたい。県内には自然環境や食品、信楽焼、織物産業など魅力ある観光資源が豊富。京阪神に近い立地もあり観光客誘致のポテンシャルがある。
- (5) JETROとして、滋賀県のポテンシャルを活かし具体的な成果を創出するため、きめ細かな支援体制を構築し、自治体等と一層連携し事業実施することが効率的である。そのため、滋賀貿易情報センターを設置し、地方創生や地域経済活性化への更なる貢献を図りたい。

2. 設置日：

2017年7月(予定)

3. 設置場所：

彦根商工会議所内(滋賀県彦根市中央町3-8)(予定)

4. 人員体制：

所長1名、所員1名、嘱託職員2名程度(当初予定)

※上記4名の他、地元経済界を代表する方1名に会長を委嘱予定